



「強さ」とは何だろう？

教務主任

中学2年生の国語の授業で過去の実力テスト問題を解いていました。「稲垣栄洋『はずれ者が進化をつくる 生き物をめぐる個性の秘密』」の文章がありました。稲垣栄洋さんは中学1年生の国語の教科書に出てくる人で、植物学を専門とされています。また「中学入試(国立私立)の国語で最もよく出題された作者」で3年連続1位になった方でもあります。

「どこにでも生えるように見える雑草ですが、実はたくさんの植物がしのぎを削っている森の中には生えることができません。」このような始まりに吸い込まれます。

「もしかすると森の中で雑草を見たという人もいるかもしれません。おそらくそこは手つかずの森の中ではなく、ハイキングコースやキャンプ場など、人間が森の中に作り出した環境です。そういう場所には雑草は生えることができます。それは雑草がある強さをもっているからなのです。」そして「強さというのは、何も競争に強いだけを指しません。」と続きます。

植物が成功するためには三つの強さがあると書かれています。

- ① **競争に強いということ**…森の中の成長が早くて大きくなる植物は光の奪い合いに勝利し、光を独占することができます。植物にとって光の争奪戦に勝つことは重要なことです。雑草はここでは戦いに勝てません。
- ② **過酷な環境にじっと耐えるということ**…競争に強い植物だけが必ずしも勝ち抜くというわけではありません。砂漠でも枯れないサボテンや雪山に生える高山植物は厳しい環境に負けないで我慢する強さをもっていると言えます。エーデルワイスはここに含まれますね。
- ③ **変化を乗り越えられるということ**…草刈りをされたり、踏まれたり、土を耕されたり。雑草が生えている場所は人間によって様々な変化がもたらされますが、そのピンチを次々に乗り越えていく、そんな強さを雑草は持っているといえます。



「強さ」とは何だろう？ 植物の生き方を見ていると、人間の生き方についても考えさせられます。競争に勝つことも強さですが、じっと歯を食いしばって耐え抜く強さもあります。いやなことを毎日コツコツとやり続けるというのも強さで、また踏まれても蹴られても、大切なことを見失わないという強さもあります。

「平均的な生き物」なんて存在しない。個性の数は無限大。唯一無二の生命をつなぐために生き物たちがとってきたオンリーワンの生存戦略。これがこの本『はずれ者が進化をつくる 生き物をめぐる個性の秘密』のサブタイトルになっています。

もちろん人間も複数の強みを持つに越したことはありません。しかし、一つでも自分の強みを作り、それを生かす、むしろ自分に合う自分の得意領域を作ることが更に大切なのだという気がします。ちなみに、自分自身は植物の強さに当てはめると、どの強さが持てるだろうか…と考えます。①も②も苦手なので、③かなと。雑草さんを見習ってみたいです。

第2回講話会「建築家のお仕事」(古代裕一さん)



2月9日(金)に、第2回講話会を実施しました。建築家の古代裕一さんから「建築家のお仕事」というテーマでお話をお聞きしました。「18才までの経験が今の仕事の糧となっています。これから、いろいろな経験をたくさん積んでいってください。」というメッセージをいただきました。

【児童生徒の感想より抜粋】

- ・ アイデアを何度も模型に表して、本物に近づけていくところがおもしろいと思いました。お寺の形が独特で、外は明るい感じで中は暗い感じという作り方がすごいと思いました。
- ・ 模型に人や植物を置いたりして、どんなふうに見えるかを考えるという話を聞いて、本当に細かい作業だなと思いました。
- ・ スイスでたくさんの建物の建築にかかわっているとお聞きして、もしかして、古代さんがデザインした建物をぼくも見ているかと思いました。
- ・ 子どものころの経験が仕事の役に立っていると聞いて、経験することの大切さを知りました。自分ももっといろいろな経験がしたくなりました。



古代さんの説明資料より

